

北九州市立大学同窓会 和歌山支部便り 9

拝啓：朝晩の冷え込みがきつくなり、もうすっかり冬になったようですね。和歌山支部の皆さんお変わりありませんか？今回の支部便りは面倒な文章を止めて、次のページにアップしています写真を説明しながら書いていきます。

前回の支部便りでも書きましたが、和歌山支部の有松支部長と筆者が第 68 回青嵐祭に参加しましてミカンと梅干を販売してきたことを取り上げます。

これには支部長の並々ならぬ意気込みがありました。和歌山支部でも年々会員が減ってきています。現役の学生をいかにして同窓会の方に入ってもらえるか考えました。

本部に聞きますと和歌山県人の現役生や関連の方は 10 名少しです。それなら今年のものにはならなくても広く卒業後現役だった学生たちをその赴任先の支部に入ることが出来る様に、説得しようではないかという素晴らしいお考えからでした。ただそのためには何か手段がある。それが物品の販売でした。厳しい条件がある中で、同窓会本部の方々のサポートがあり、大学祭でのブースを確保することが出来ました。支部長は現役学生との説得と会話を私は物品の販売を担当しました。

前回の時にも書きましたが、泉大津港より夜行のフェリーでいきます。新門司港から小倉駅へは送迎バス、小倉駅から大学まではモノレールで行きました。時間はかかりますが予想以上の快適な船旅でした。

早速次ページの写真を見てもらいながら 50 年以上も間の空いている大学祭を説明します。モノレールは 50 年代後半の方でないとお分かりにならないでしょう。今では北九大のペイイトした車両編成もあるのですよ。北方の交差点もすっかり変わっています。校内は一度に建っていないので、ご存じの方もいらっしゃるでしょう。ステージで綺麗に又リズムに溢れる女性たちは応援団に所属しているチアリーダーの皆さんです。北九大の華ともいべき彼らを知っているのは、間違いなく平成 10 年以上の O B のお方でしょう。

学内が少し工事をしていて関係で少しブースが減ったそうですが、それでも 90 近くブースが出ていました。早朝の学内に出て同窓会福田事務局長と有松支部長が見ている所です。販売に至るまで同窓会本部の人達にはすっかりお世話になりました。和歌山国体の宣伝もしている和歌山支部の 5 番ブースです。ミカンと梅干は 500 円均一料金で売り切りました。三段目のなぜ有松支部長がわざわざ小倉まで来たかを示している写真です。現役学生との対話で、「あなた方は入学した時点で、同窓会員なのです。卒業したら実家や勤務先の土地には必ず同窓会支部があります。先輩に教えてもらえるのも支部なのです。」

夜の対話集会も設定しましたが、やはりそこに来る学生は少なかったようです。

同窓会の田村会長が言われる路線と、有松支部長のお考えが一致して実現しました。結果は簡単に出ないかもしれませんが、和歌山支部がなぜ遠くから出て来たかは必ず分る事と思います。しかも 1 週間後には“北九州市立大学同窓会「第 64 回総会・懇親会」”があり全国から来られた支部長や有志に状況が分るので、一つの起爆剤にはなったでしょう。青嵐祭に執行部として活躍された方が約 160 名、後 2 年で 70 回目を迎えます。

北九州市立大学の同窓会ももうすぐ 70 回目を迎えます。和歌山支部の皆さん方も何らかの形でご協力をして頂けたら幸いです。

幹事 服部 薫

敬具